

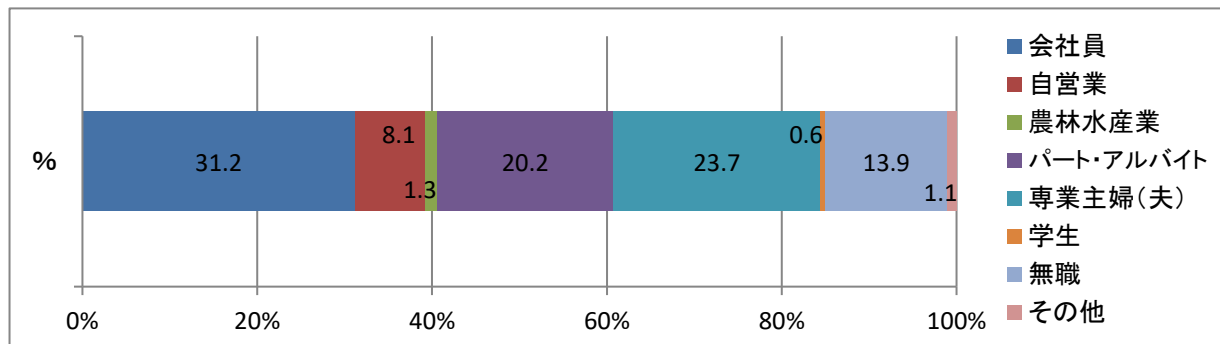
## 男女共生社会について

- 調査期間 平成31年1月21日～平成31年2月1日
- 調査の趣旨 男女共生社会について、皆様のご意見をお聞きます。
- 対象者数 691 人(平成31年1月21日現在)
- 回答者数 545 人
- 回答率 78.9 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

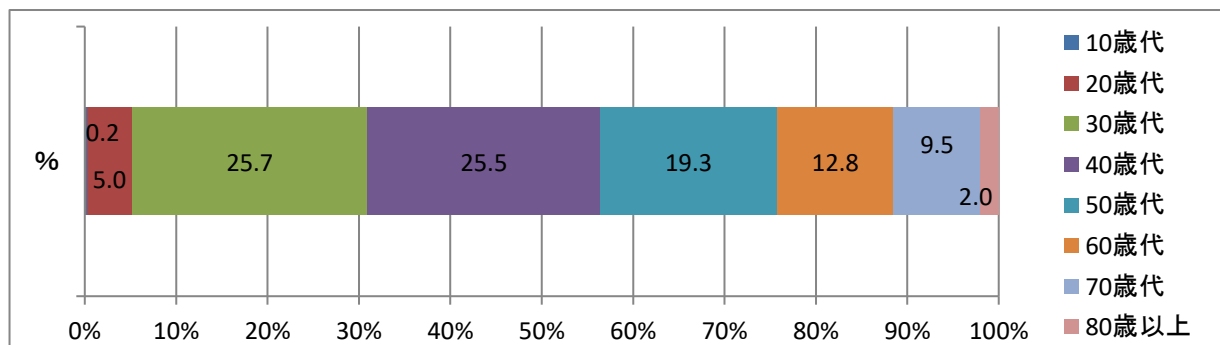
### 【職業】

内訳	人数	%
会社員	170	31.2
自営業	44	8.1
農林水産業	7	1.3
パート・アルバイト	110	20.2
専業主婦(夫)	129	23.7
学生	3	0.6
無職	76	13.9
その他	6	1.1
合計	545	100.1



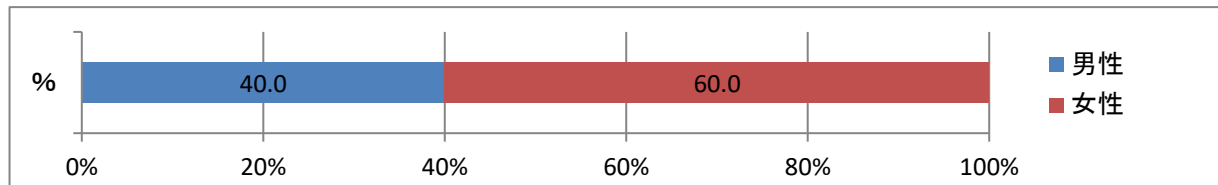
### 【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	1	0.2
20歳代	27	5.0
30歳代	140	25.7
40歳代	139	25.5
50歳代	105	19.3
60歳代	70	12.8
70歳代	52	9.5
80歳以上	11	2.0
合計	545	100.0



【性別】

内訳	人数	%
男性	218	40.0
女性	327	60.0
合計	545	100.0

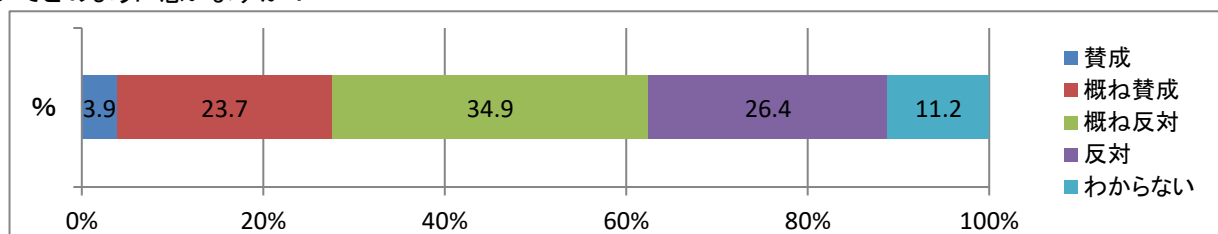


【導入】

本市では男女共生社会の実現に向け、平成30年6月に「和歌山市男女共同参画推進条例」を制定しました。また、市長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言へ賛同するなど、女性活躍、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、各種施策を推進しています。

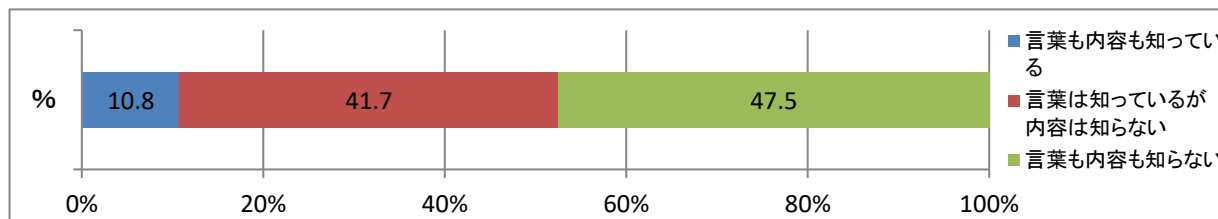
【問1】「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方についてどのように思いますか？

内訳	人数	%
賛成	21	3.9
どちらかといえば賛成	129	23.7
どちらかといえば反対	190	34.9
反対	144	26.4
わからない	61	11.2
合計	545	100.1



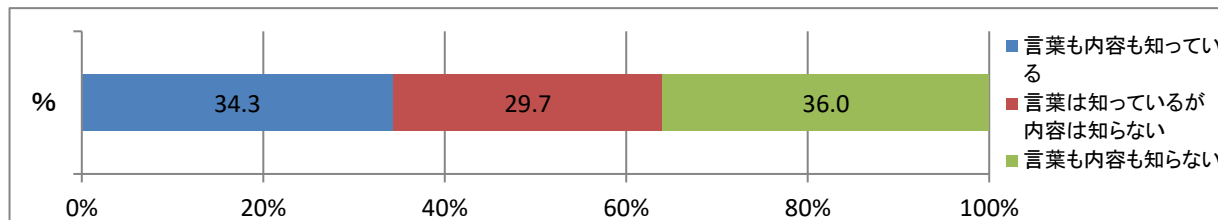
【問2】「和歌山市男女共同参画推進条例」を知っていますか？

内訳	人数	%
言葉も内容も知っている	59	10.8
言葉は知っているが内容は知らない	227	41.7
言葉も内容も知らない	259	47.5
合計	545	100.0



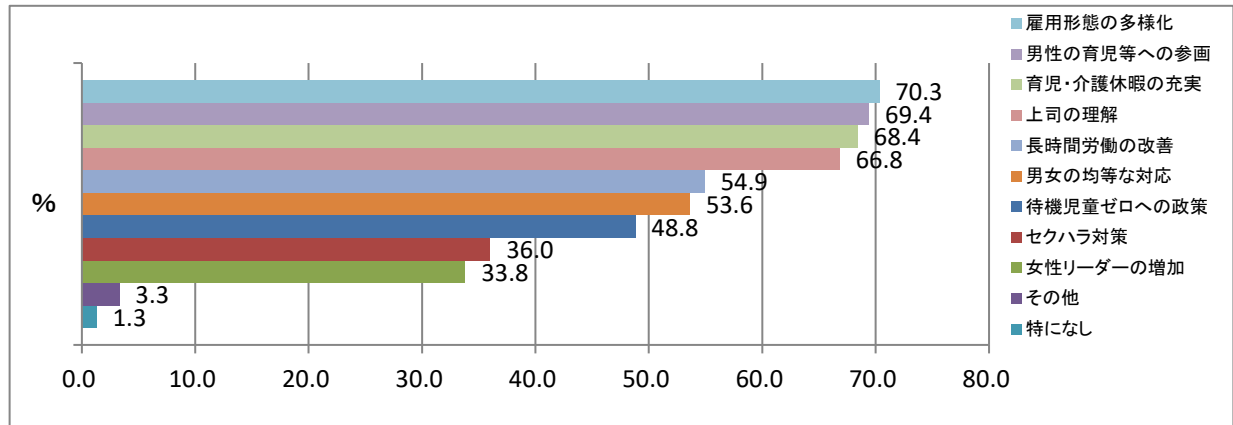
【問3】「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか？

内訳	人数	%
言葉も内容も知っている	187	34.3
言葉は知っているが内容は知らない	162	29.7
言葉も内容も知らない	196	36.0
合計	545	100.0



【問4】女性が社会で活躍するために必要だと思うことは何ですか？

内訳	人数	%
雇用形態の多様化(柔軟な雇用)	383	70.3
男性の育児・家事への参画	378	69.4
育児休暇制度や介護休業制度等の充実	373	68.4
上司の理解(イクボスの育成)	364	66.8
長時間労働の改善	299	54.9
男女の均等な機会・待遇の確保	292	53.6
待機児童ゼロへの政策	266	48.8
セクシュアル・ハラスメント対策	196	36.0
女性リーダーの増加	184	33.8
その他	18	3.3
特になし	7	1.3

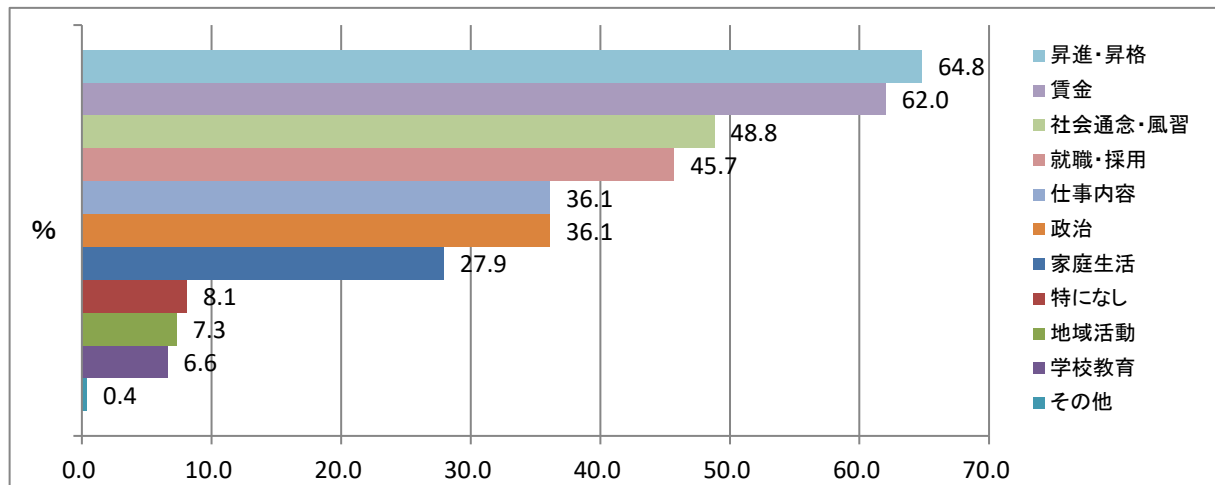


【問4-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者18人)

男女とも意識改革  
 老若男女全員の意識改革とそれに必要なこと全て  
 女性の意識変化  
 性別で判断する見方が間違っているという教育。男女差なく、一人一人を見て認める社会のものの方。  
 「女性のキャリアプランは考えない」という古い体質の会社が和歌山にはまだまだ多いように思います。男性のことしか考えていない企業に、女性が働きやすく、活躍しやすい職場を作らないと企業が立ち行かなくなるという危機感を伝えることが必要だと日々痛感しています。  
 もうすでに女性は社会で活躍しています。問題は、家庭を犠牲にする長時間労働を当たり前に入れてしまう職場と、自分のポジションを奪われたくない男性のエゴだと思えます。  
 介護で女性側が仕事を辞めなくてはいけなくなるパターンが多いので、特別養護老人ホームなど、金銭的に預けやすい施設を増やしてほしい。  
 女性が家の世話をしなくて良いように幼児の世話及び老人の介護をするためのベビーシッター制度や介護制度の拡充  
 職場保育所  
 同僚の理解  
 社会的な理解  
 家庭や学校における教育…雇用形態や、制度・しくみの多様化と同様の重要さで、市民ひとりひとりが、男女の性差によらない、多様な働き方や生き方を尊重する「マインド」が醸成されてこそ、真にゆたかな社会は実現すると思う。市民の考え方が、旧来の因習や価値観に凝り固まっているなら、旧世代がひと世代変わらないかぎり画餅であろう。  
 社会構造自体が男性中心で形成されてきているため、根本から変えるしかないと考えますが、それを掘り返すと恐らく社会が成り立たないと考えます。上っ面だけ変更することは上記のような選択肢のいくつかを実行すれば可能かと考えます。  
 独身女性でなく、主婦が子育てを他人や夫に任せるのには絶対に反対ですので、上記回答は出来ません。主婦は我が子を一生懸命に育ててこそ明るい未来に繋がる。家庭を一生懸命に守ってこそ、夫は全力で仕事ができる。それにより明るい幸せに繋がる。女も男も関係なく外にでて仕事をすれば中途半端な仕事になり生産性はどんどん低下し日本は後進国になる。  
 病児保育の充実化。小学生低学年まで含む。  
 「女性が」という考えではだめだと思う。「男女関係なく」社会で活躍し、家庭を守ると考え、性にとらわれた政策から離れなければならない。  
 女性自身の能力や意識の改善と、向上心を持ち努力する事が重要。  
 専業主婦でも専業主夫でも、肩身がせまい思いをしなくて済むよう、仕事も家庭も単独でも両立でも、それぞれの家庭、男性、女性ともに自己決定の尊重される社会が必要。また、男女同権の意味で、選択的夫婦別姓制度の実現が必要。

【問5】 女性より「男性が優遇」されていると感じるものはありますか？

内訳	人数	%
昇進・昇格	353	64.8
賃金	338	62.0
社会通念・風習	266	48.8
就職・採用	249	45.7
仕事内容	197	36.1
政治	197	36.1
家庭生活	152	27.9
特になし	44	8.1
地域活動	40	7.3
学校教育	36	6.6
その他	2	0.4

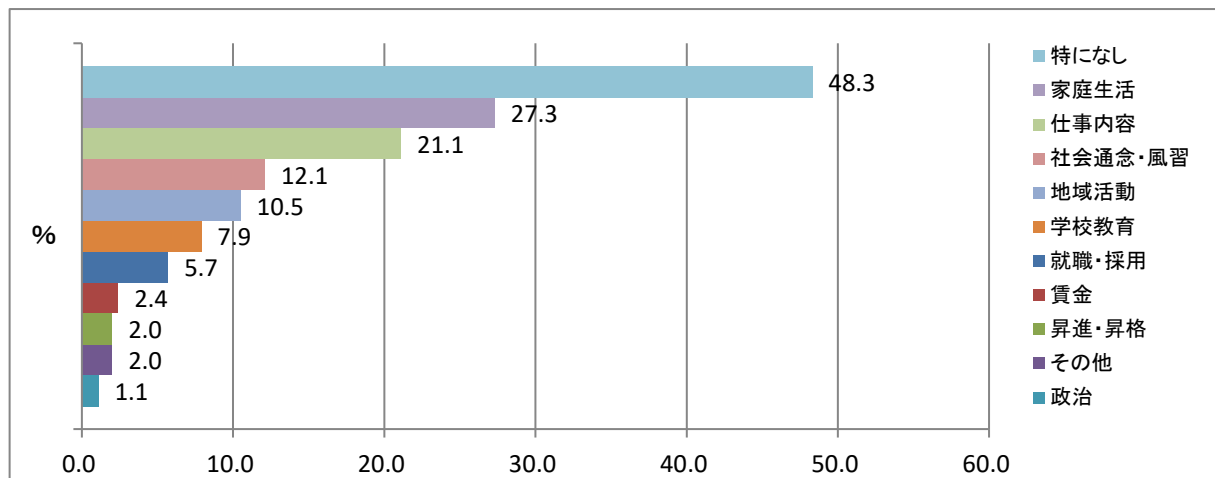


【問5-1】 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。（該当者2人）

仕事をする際の家族のサポート

【問6】 男性より「女性が優遇」されていると感じるものはありますか？

内訳	人数	%
特になし	263	48.3
家庭生活	149	27.3
仕事内容	115	21.1
社会通念・風習	66	12.1
地域活動	57	10.5
学校教育	43	7.9
就職・採用	31	5.7
賃金	13	2.4
昇進・昇格	11	2.0
その他	11	2.0
政治	6	1.1

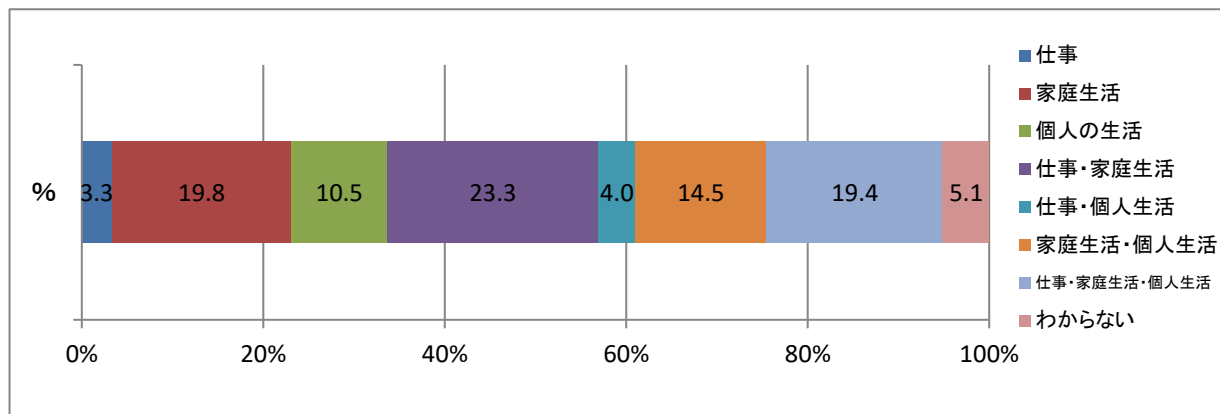


【問6-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。（該当者11人）

女性専用車両やレディースデー、お店のサービスなど。  
 女性専用車両、レディースデー、レディース割引など。  
 いろんな分野でレディースデーはあるが、メンズデーはほとんど聞かない。  
 女性のみの割引  
 平日のランチの価格（その程度のこと）  
 トイレについては女性用が多い。コンビニでは、女性専用だけがあるのはおかしいと思う。  
 平日にカフェでランチしているのはほぼ女性  
 休暇制度の取得のしやすさ（家族の体調不良の際休みやすいなど）勤務時間の融通性  
 甘えが許される。  
 建設作業現場での、作業員で土工、配管工、電気工等に女性は存在しない。  
 食やファッション、流行に対して。

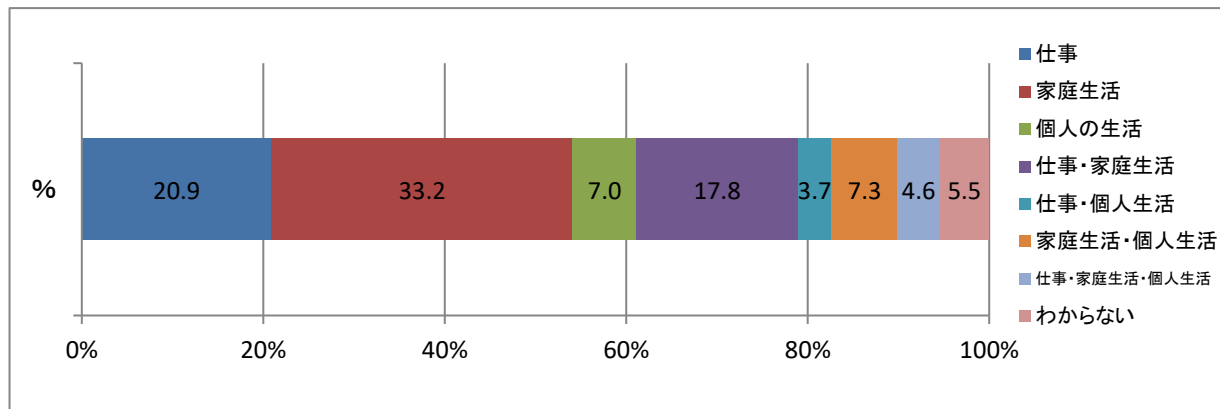
【問7】生活において、優先させたいと思うものはどれですか？

内訳	人数	%
「仕事」を優先	18	3.3
「家庭生活」を優先	108	19.8
「個人の生活」を優先	57	10.5
「仕事」と「家庭生活」を優先	127	23.3
「仕事」と「個人の生活」を優先	22	4.0
「家庭生活」と「個人の生活」を優先	79	14.5
「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を優先	106	19.4
わからない	28	5.1
合計	545	99.9



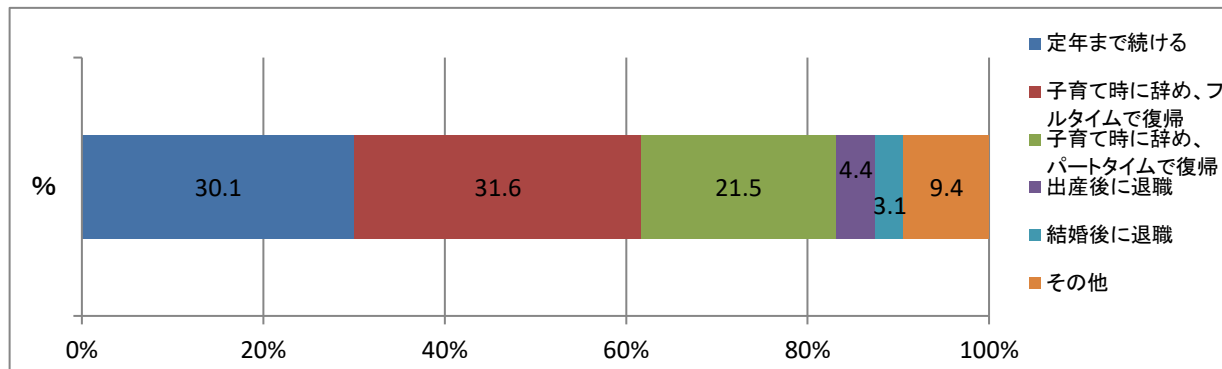
【問8】生活において、実際に優先させているものはどれですか？

内訳	人数	%
「仕事」を優先	114	20.9
「家庭生活」を優先	181	33.2
「個人の生活」を優先	38	7.0
「仕事」と「家庭生活」を優先	97	17.8
「仕事」と「個人の生活」を優先	20	3.7
「家庭生活」と「個人の生活」を優先	40	7.3
「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を優先	25	4.6
わからない	30	5.5
合計	545	100.0



【問9】女性の就業のありかたについて、望ましいと思うものはどれですか？

内訳	人数	%
仕事は定年まで続ける	164	30.1
子育ての時期は一時的に辞めて、その後はフルタイムで仕事をする	172	31.6
子育ての時期は一時的に辞めて、その後はパートタイムで仕事をする	117	21.5
出産後は、仕事をやめて子育てに専念する	24	4.4
結婚後は仕事をやめて、専業主婦になる	17	3.1
その他	51	9.4
合計	545	100.1



【問9-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。（該当者51人）

各家庭によって違うので、望ましいと思うものも違うと思います。

個人で違うので、その家庭や個人の選択肢がどれでも選べる事が望ましい。

人それぞれ望む就業のあり方があるので、決まった形ではなく、その人それぞれに応じた形態や選択肢があった方が良い。

就業のあり方は人それぞれの考え方や立場、環境によるものであって、どれか一つが望ましいとは言えない。

人それぞれでいいと思う。

望ましい条件は人それぞれなので決められない。

このライフスタイルや収入によって違うので望ましいあり方があるとは思いません。

個々違うので、本人が望むような形がすんなりと取れなければならない。

人それぞれ

望ましい事は本人の考え次第です。子育てに専念したい方も居れば、仕事を定年まで勤めあげたい方も居るかと思じます。

それぞれの事情による。

個人の自由、その人の思いやその家庭の経済状況などを考えて、その人が選ぶのがよい。

個人の意識や置かれている状況が一樣ではないので、選択肢中に正解はない。「子育て中の期間も働きたい人は働けるようにする」があれば選んだけどね。

個人個人違います。自分にあった選択をすれば良いと思います。

人それぞれ状況に応じて。

男性である私が望ましいことを考えること自体が間違っていると思う。個人個人がそれぞれの状況に応じていろいろな選択肢がとれるようにすべき。専業主婦になりたい人もいるでしょうし、男性が育児を担って、女性がずっと仕事を続けてもよいわけで。

その時の状況に応じて選択したらいいと思います。

今は在宅就業という働き方もあるし、それぞれ個人で考え方も違うと思うから。

各家庭によって考え方が違うので、1つだけと言われると難しい。

望ましいと思うものにも、その家庭の事情それぞれで変わってくるものであって、望ましいという形で選んだりするものではないのでは？と思います。

この質問そのものが愚問だと思います。男性にはこのような質問をされることはないと思いますので、やはり女性の働き方を均一化させて問題解決させたいだけと感じてしまいます。同じ女性であっても、仕事や家庭に関しての考え方は人それぞれだと思います。女性でも男性でも、自分の意思を尊重できるような働き方が出来る社会になることを希望します。

いつでも好きな時に働ける環境とそれができるシステムの構築の方が先

その時の状況で臨機応変に対応できれば。

その女性が本当にやりたいようにやればよい。だからこれだというものは決めたくないです。

個人がその時の都合で自由に選択できる社会環境である。

個々の希望がかなえられることが一番と思う。

どれが望ましいという答えはない。その人がどのように働きたいか、どの選択もできることが望ましいと思う。

自由に選択できるように。

いろんな選択肢があること

個人の選択を優先するべき。

女性も男性も望んだ生き方が出来るようになって欲しい。男性には『子育ての時期は一時的に辞めて、その後はフルタイムで仕事をする』という選択肢が無いことが問題では？ただ、私も含め男女雇用機会均等法後の世代でも結婚・出産で退職せざるをえなかった世代に、今から急に働けといわれても難しい。和歌山の求人は介護の仕事がほとんどで仕事の選択肢はない。求人件数が多くても意味が無い。

どれが望ましいかは、人によって異なると思う。本人の事情や考え方に合った方法を選択できることが望ましいと思う。

各々が望むライフスタイルをできること。仕事したい人は仕事、両方したい人は両方、家庭を優先したい人は優先できる、等。

「女性の」と言わずに、「すべての人の」就業のあり方について、その人の力が生かされる場所で力を発揮できるようにすべき。適材適所、助け合いの結果、女性が仕事、男性が育児という選択も、その逆と同じように当たり前に行えるべきであるとする。

生涯現役

子育て時期は半日ほどの仕事量でほそぼそ仕事を続け、正社員に復帰する。今は両極端すぎると思います。

子育ての時期は一時的に辞めて(あるいは休んで)、その後は生活の実態に合わせてパートタイムで仕事をする。余裕があればフルタイムで仕事をする、といった柔軟な考え方でいいと思う。

あまりどれも望ましいとは思えない。選択肢からは「女性も働いて税金を納めよ。または、税を将来納める子どもを多く産み、国や地方に貢献せよ」圧が受け取れてしんどい。

出産・子育てののち仕事を辞めなくても一時休暇を経て働くという選択肢が欲しい。

産前産後の休暇を充実させる。休暇をとるかとはならないかは個人の判断。育児休暇は三年は必要。

あり方といった色付けは似合わない。

子育ての時期は育休を取って、同じ仕事内容に復帰。

特にこだわらない。

フルタイム、パートタイムにこだわらない。

子育て中は一時的に時短・責任の軽い部署に移り、その後時定年まで勤める。これは女性に限らず男性も同じとする。

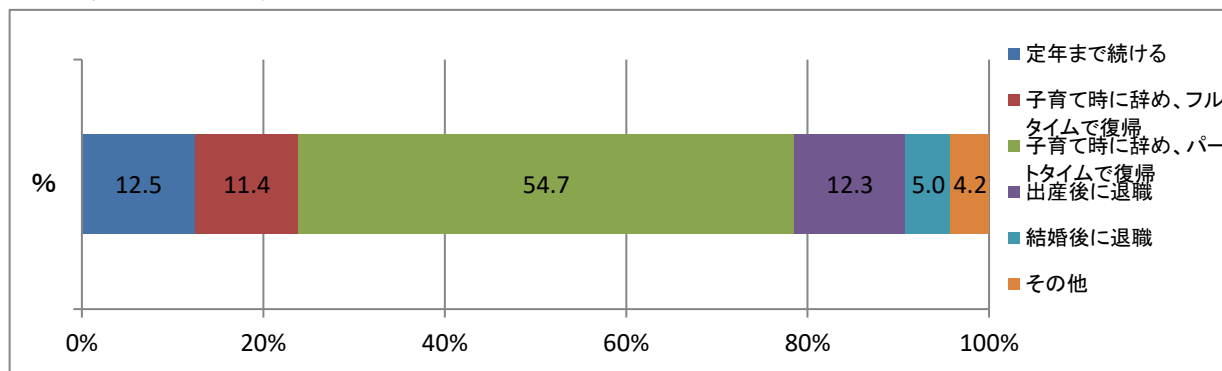
単純に短い内容でまとめられない。また、女性はこれまで、特に和歌山のような地方では、進学する大学が限られ、就職先も限られるので、最初から働く気持ちを削がれているとも言えるので、簡単にまとめた内容の選択肢は選べない。

固定観念は良くないです。

産後の一時期以外は、フルタイムで仕事する。

【問10】 女性の就業のありかたについて、実際の状況としてあてはまると思うものはどれですか？

内訳	人数	%
仕事は定年まで続ける	68	12.5
子育ての時期は一時的に辞めて、その後はフルタイムで仕事をする	62	11.4
子育ての時期は一時的に辞めて、その後はパートタイムで仕事をする	298	54.7
出産後は、仕事をやめて子育てに専念する	67	12.3
結婚後は仕事をやめて、専業主婦になる	27	5.0
その他	23	4.2
合計	545	100.1



【問10-1】 「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。（該当者23人）

実際の状況もいろいろなのではないですか？当方の現状は3番目ですが。

人それぞれ  
個人差があると思う。また、配偶者とのバランスが重要で、一概に言えるものではなく、選択肢も豊富とは言えず、その点は不満である。  
場所によって、各々の経済状況、各々の能力、周りの人の考え方によって許される生き方によって、それぞれ違う。  
仕事内容でも違って来る為その他にしました。  
状況に応じて。  
多様化しているので、これとは選べない。  
子育ての時期は休暇を貰ってその後は状況に応じて選択したらいいと思います。  
後期高齢者の為、実際の状況と違うから。  
実態を知らないので答えられない。  
結婚・妊娠をしていないため。  
私自身は就業したことが無いので、何も考えられない。  
当てはまらない。  
フルタイムで仕事をしていたが、子育て時期には同じ職場でパート、その後はフルタイム。  
フルで働く方、パートで働く方、専業主婦なりにその立場が差別されない社会がいいです。  
出産後に一時休職  
周りでも、色々な働き方の方がいらっしゃいますので、どれが多いかと言われても選べません。ただ、色々な働き方をされていますが、その選択が自分の希望ではなく、仕方なくそのような働き方をせざるをえなくなっているということのほうが問題だと思います。子育てに専念したいが経済的に難しい方、仕事を続けたいのに家族や親族の反対で辞めざるをえなかった方、職場での待遇でやむなく決めた方など、希望がかなえられていない方がたくさんいると思います。  
わかりません



【問11】 男女共生社会について、ご意見等ございましたらご記入ください。

和歌山は実家の近くに住んで、二世帯で育児している人が多いので、女性も働いている人も多いが、公的なサービスは不足していると思う。民間のサービスでもいいので、一時預かりや企業内託児所等があれば働きやすいと思う。ただ、理想は女性も仕事を辞めずに、男女どちらも育休や時短などをやりくりして育てていくのがいいと思います。

男女とわず「男女共生」が実現するまで、身が持たないのでは。とくに政府が提供する三世帯同居や職住近接については、懐疑的に思う。祖父母の支援とりわけ、シニア女性への負担を強いる構図が予想される。育児にせよ、介護にせよ、ケアの問題を当事者をとりまく「家族」に負担させるのは酷な話。「地域の他人がおせっかいを焼く」ことを可能にする、地域のしきみを機能させる施策を、市にのぞむ。

和歌山市に限らず、県内に女性首長はいますか？遅れていませんか。

アンケートを回答していましたが、梓にはめようとすすぎてる気がします。なにがなんでも妙案一点を選ぶのでは今までの一択ルールとなんらかわらず、男、女どちらも生きにくくなると思います。これほど多様化した世の中なのだからルールも多様化すればいい。各々が決めればいい。その各々の意見に寄り添える市であってほしいです。

公費を使い運動を推進している以上、費用対効果を数値的に確認できる仕組みを導入し、広く市民に開示してほしい。

行政のより強い支援が必要だと思う。

地方自治体の積極的な関与が必要

本気でレディーファーストの社会に和歌山市役所で全国に先駆けて率先して取組みませんか。レディーファーストとは女性優位ではなく、男女の身体的強弱を念頭に置いた女性に配慮する当たり前(女性がそれを認識していることが前提です)の組織体制(民間も役所も)だと思います。且つその為には深い認識と勉強心を持つ市議会議員達が本気で取組むことを期待したい。議員や役人は市民にもう少し向きあつたらなと感じるこの頃。

家庭を優先すると仕事が出来ない等一日30時間ぐらいほしくなります。社会的なサポートが充実した社会にならないと無理ですね。介護や保育が充実し他人に任せられる様になれば、両立できる。

育休も子どもの急な病気で休むのも早退するのも母親の仕事というような常識をまず変える必要がある。長時間労働では子育ての負担がかたよる 賃金が安くては長く働かれない。共働きするしかない、子どもの幸せを真ん中にすえた社会ができていない。待機児童の解消のみならず、保育所は入れたらいいというものではない。小1の壁と呼ばれる学童も然り。今の和歌山市の制度や進め方では女性が輝く社会から逆行していると思います。

女性の社会進出のためには保育所等の土日開園なども大切ではないか。

人が増えてきます。だからとって「子供を産む年頃だから仕事はセーブしろ」とか「早く結婚して子供を産め」というのは違うと思うので、個人の本当に希望する生き方・働き方と子どもを持つ・持たないの考えを、できれば企業が共に考え、共有し、応援していくのは女性が男性の中で働き続けられる社会だと思います。キャリアカウンセラーを企業が置くというのもよいと思います。

長時間労働を禁止してワークシェアリングを進めるべき。正社員、正職員を減らし、準職員やパートを増やし、兼業を認める。企業が本気で取り組むように、是正しない企業に課税してはどうか。

いろいろな議論があつていいと思うので、意識出来る社会をなお一層作るべき！

言うは易し、行うは難し。机上の空論だけでなく、具体的な実践を望みます。市民全員で変えましょう。

古くさい考え方の人が多いので、まだまだ共生社会にはほど遠い気がします。男性、女性と意識しなくても個人が自分の力を発揮していけるような社会にするため、みんなの意識をアップデートしていかなければ未来はないと思います。女子トイレにしかおむつ交換台がない場所など、環境も変えていかないとイケませんが、まずは人が変わらないと駄目だと思います。

女性の仕事のあり方云々以前に、男性に家事、育児は女性だけの仕事でない、家事、育児は男女平等であるとの認識をもっと浸透させるべき！と私は思う。

男性の家庭生活における意識改革がなければいつまでも改善しないと思う。

「男女共生」に対する意識は、徐々に変わりつつあると思いますが、それが目に見える形になって表れてくるのには、まだまだ時間はかかると思います。法令や制度で、強制的にでも変えなければいけないところもあると思いますが、人々の意識を変えるためには、学校教育の段階から職場・地域まで、様々な場所や視点からの働きかけを時間をかけて続けていくべきだと思います。

結婚し、妊娠経過がよくなる仕事を休もうとしたら、やめさせられた。その後も2人目、3人目とめぐまれたので、パートや内職をその都度やめた。やめることにより、家計は圧迫される。お金がないなら、子供は諦める、みたいな社会の雰囲気か怖いと思う。

出産、子育てとなると、どうしても周りの援助が無いと仕事が出来ない。子供が小さいと働けないという社会制度になっている。

社会の理解がないと無理だと思う。

結婚してから私は11年専業主婦をしています。その間に4人の子供たちに恵まれました。主人も仕事をしながら、子育てや家事をこなしてくれます。私も家計を助けるべくパートなど行きたいのですが、下の二人の子達はまだ0歳と2歳なので、保育園に預けるとお金の事、病気や行事で休まなければならない事を考えるとメリットが見当たりません。理解してくれる会社、上司がいれば私も全力で頑張りたいと思うのですが和歌山にはまだそういう企業は少ないと思います。

私自身も働きたいと思うが、実際問題幼稚園への送り迎えや食事の準備など家庭の事を考えると仕事との両立できる能力・体力共に自信はありません。早く帰宅出来る時短社員、在宅勤務社員などの働き方の多様化に繋がる制度や、社員は残業が当たり前など人々の考え方の変化が必要になってくると思います。

何よりも社会の理解が得られることが大事だと思います。特に和歌山は男女差別が酷い気がします。

女性が働き続けるには今の社会では無理があります。女性が結婚出産しても辞めなくてすむには、男女共に残業が無くて十分な賃金が貰えて家庭に早く帰り夫婦で子育てが出来る環境が必要だと思います。

男女の権利を主張すると同時に、譲歩し互いの状況を理解し合う柔軟性が必要。

女性と男性がそれぞれすみわけできる環境で活躍するのが望ましい。

個人の意見・生き方を尊重をする。

女性の働き方、男性の働き方、どんなあり方が望ましいかというよりも、どんな働き方でも受け入れられたらいいなと思います。女性だから子供のために休まないといけなこともないし、男性だから働かなくちゃいけないとかもないです。

職種によっては男女問わず活躍できる仕事が増えているように思います。子どもでも大人でも男女と性差で人を見るのではなく、一人の人間の人の人柄や魅力をみるのが当たり前な社会になればいいなと思います。

結婚後も出産後も仕事をしたい人には、パートもフルタイムで仕事をしたい人も、自由に選択出来る環境が必要。

男女それぞれの尊重

働きたい人は働いて、家庭を守りたい人は守る、自分のしたいようにできる社会になってほしいです。

お互いの役割を理解しながら尊重しあえらばうまく共生できるのではと思います。

男女ともに互いに尊重。各役割の確認。あまり優遇や冷遇等を言いつぎるのは良くない。

個人の持っている能力・家庭環境も違うが、男性・女性が分け隔てなくその能力を活かせる社会になっていったらよいと思う。

民主主義の基本的な人権のひとつである、全ての人に対して、チャンスの平等が守られる社会にすることが最重要事項であると考えている。

男性も女性も共に働き、みんなで子育てができる環境があれば良いと思います。

私は、男女共生社会とはどちらが優遇されているかを比較するものではなく、男性女性がそれぞれのできることをのばしていくのではダメなのかと考えてしまいます。だって子どもを産むことができるのは女性だけなのだから男性と同じようになんて不可能だと思うし、子育ての質を問われる時代で仕事もして子育てもして、少し母親に対して色々求めすぎてるのではと思います。できる人ややりたい人やらなければいけない人そうではない人たくさんの人がいる中で、押し付けがましくなるのではなく、色々な選択肢を選べる社会であればいいなと思います。

老若男女全ての人が尊重しあって生きていければいいと思う。

男性であっても女性であっても、個々に得意なこと不得意なこと、様々あると思います。男性だからこうあるべき、女性だからこれくらい出来ないと失格など、各個人の意識を変えていくことが大切かと思えます。学校で色々教わっても、家族や周りの大人が意識を変えていかなくては、子どもの意識も変わっていかないと思います。それでも、子ども達には性別関係なく、個人個人の考え方を尊重するような教育を続けてほしいです。少しずつかもしれませんが、個人を尊重出来るような人が増えてくれば、いつかは社会全体の意識が変わってくるかもしれません。ほとんど効果がないように思えても、伝えていくこと、主張し続けることが大切だと思います。より多くの方に、このような考え方を少しでも意識してもらえよう、広報活動をお願いしたいです。

やはり未だに男性社会だと思うので、男性の育児休暇を取る人も余り聞かないしどうしても女性が育児とパートという事が良く聞かれます。二人の子供なので二人で育てて行くのが理想的だと思う！

まだまだ男尊女卑の古い風習が根強く水面下にあります。本音は表向きは言えなくても、特に仕事に関しては、どこの部署にも圧がかかっていると思います。言葉だけが一人歩きしているのも否めません。

男女共生という言葉がそもそも差別を生み出している。男性の方が自殺者が多く平均寿命も短い。これは現代社会が男性にとって生き難いことを表しています。男女では無く人間力で公平な社会を目指すべき。一見綺麗な男女共生社会という言葉に本質を失う危険性が有ることを十分に理解して改善を進めてほしい。

口では男女平等と言っているが、日本の社会は男性優先社会です。

仕事でも家庭でも、男性の方が何かと威張り散らすくせに、能力的に使えない人が多いと感じる。気配りやマルチタスクをこなすなど、女性の方が能力的に高いのに、家庭の事情の制約などで要職に就けなかったり、部下の立場に甘んじなければならない。また、女性のように家事をこなせる男性は仕事の能力も高い傾向にあると思う。

女性への差別が大きい、民間会社や官庁でもっと女性の役職者を増やすべきだ。

女性活躍なんていっていますが、当の女性本人達の姿をみていると、結局男性におんぶに抱っこが理想っぽいので、一律に女性を活躍させるべきという風潮には違和感しかない。やる気のある女性なんて一握り。

子どもができると女性が仕事を辞めないといけなくて選択肢がある限り無理だと思う。個人的には男性は仕事、女性は家庭って考えてもいいけど、だったらそれを言えるだけ男性に稼いで頂きたい。数多くの女性がパートも家事も子育てもってしてる中で男性は仕事、休日は休日ってえらい楽で羨ましい。

男女雇用機会均等法は生かされていないように思う。医科大学の差別問題は、最高の教育関係者の行為とは思えない。高齢化が進む中でもっと女性を評価すべきだ。

市役所職員も、市議会議員も、女性がもっと増えるべき。

和歌山は特に年上の男性の力が強い。中高年層の意識改革が大事。

女性は出産という大仕事があるため、男性と全く同じ扱いというわけにはいかないが、それを除けば限りなく男女同じ扱いの社会であるべきだ。就職、昇格などでの差別はまだあると思う。

構築自体が男性がした社会なので、それを変えていく事は容易ではないと考えます。特に日本は未だに男尊女卑で問題ないと考えている層がある一定以上いるため、都市部ではなく地方に住む方々も変えていく事が必要かと存じます。

男女共生と言いつつ問9 10はどうして女性からだけの質問なのでしょうか？ 出産があるのは女性だからでしょうか。いつも思うのですが、男女と考えずに人間と考えられないのでしょうか？ 男性の年金は女性の年金よりも貰える年齢が後になるのは何故でしょうか？ 私は女性ですが、女性は優遇されてる時が多いと思います！ 悪い事は男性より良くして良い事はそのままでは駄目だと思います！

仕事・昇格について男性優先になっている。男性は、理解し家事などに積極的に取り組み、女性の能力向上への力になる。

余りにも女性に対する社会の扱いがまだまだ男性に比べて悪すぎると思います。少子化対策をするにはまず女性に対する雇用の問題を解決すべきだと思います。

少子高齢化を改善する政策を実行している一方、成果が見られない現状として、社会が女性に求めるものが多すぎる。子供を生め、働けと相反することを求める。その影響が男性にも、さらに最終的に社会に影響を与え、全体として悪循環が生じていると考える。男女共生社会は結構であるが、役割分担は必要である。これからの社会のあり方そのものを見直さないといけないと思う。

まだまだ低レベルの和歌山県。上司に多いのは男ばかり。役職者も男。この中に居られる女の人は少ない！

日本社会はいまだ男性優先の風土を感じる場面がある。互いの考えを尊重しつつ、何かを取り決める時でも、女性が進出可能なルール作りを常に意識する必要があると思います。今は女性が手放しで条件なしに優遇されすぎと感じます。女性が好きなことをして男性が我慢して尻拭いしてるようにも感じます。男性ばかり求められて仕事も家庭も中途半端なので男性だから女性だからではなく、互いに得て不得手を補う関係が1番望ましい。男女ではなく個人として付き合うのが互いに良いと考えます。

私の会社では、「男社会」の風土があります。最近になって女性社員が同じような待遇で入ってきています。ところが、女性が少ない分、昇進試験では「女性だから試験通りやすい」という現象が発生しています。

まだまだ 女性が有意義に仕事、個人生活、家庭生活を進めて行くには社会の理解力は程遠いものだと感じます。

一時代前より、随分女性の社会進出は進んだように思うが、職種によってまだまだ女性の負担が大きいように思うこともある。政府が率先して動いてもらわないと考える。ただ、体力、能力に性差は全く無いとも言えなく、一概に語れなくもあり、難しい面もある。

女性は結婚・出産して1人前という周りの間違っただけの認知を覆して欲しい。結婚したくとも介護や自身の病気で妊娠が難しい事情がある女性がいる事実を理解して頂く活動をして欲しい。介護をしている事で働けなくなってしまい家族共倒れしそうで怖い。

女性として男女差は体力的、身体的にあることは否めないのだから、あれが平等にできるはずがないことを認識すべき。女性の役割をやらされているのではなく重要なことを任せられていると考え方を変えるべきです。

女性でも、働きやすい環境にしてほしいです。

頑張る女性を応援したい。

女性が働く時婚期が遅れる可能性があるため、サポートが必要。

いつになったら本当に男女共生になるのか。出産を機に仕事を辞めざるを得ない女性も多い。

元々日本の文化として、男は仕事で家庭を支え、女は家で家庭を守るという事があり、急に「女性も仕事に出なさい」と言われても難しい点が沢山ある。仕事に出たいが、子供の面倒や家事については女がするという暗黙の考え方があり、なかなか難しい。フレックスタイムの企業が増えれば、就業もしやすいのかも知れないけど、なかなか難しい。

子どもが1年以上保育所(こども園)に入れず、せつかく再就職出来たのに仕事を辞めなければならない、なんてことがないような社会になればいいのに。

女性が働きやすい社会をとの事だが、仕事も家事も介護も女がするのはかなり酷です。なぜ女性が働かなければいけないのか？を考えると、私の意見としては、女性が働く分男性(既婚、子あり)の給料が上がれば、子育てに専念できるのではないかと考えます。

女性を守る環境を大事にする。

男性の収入だけでは生活が難しい時代になっていると思う。しかし、女性が結婚や出産後も働き続けるのも、今の環境ではまだまだ困難だとも感じる。

仕事内容によっては男女平等と思われるものもあります。ただ、女性側の意識としても夫がメインで仕事してと考える人が多いのも事実です(夫が主夫なのは体裁が悪い等)。

男性はもっと家庭生活において自立するべきだと思います。

女性の意見をもっと聞いて女性が働きやすい環境を作してほしい。

男女共生社会は確かに望ましいことですが中々思うようにはいきません。特に子供が生まれると女性に負担がかかります。これは母親なら仕方がない事。そのことを周りが優しく認めることが女性の社会進出の要ではないでしょうか？

女性は次世代を担う子供を産み育ててくれる大切な存在です。出産や乳幼児を抱える女性はその間は安心して生活できる基盤を作るべきです。女性が無理して働かないでいい社会を作ることが本質ではないか。

あくまでも男は子育てのサブ要員としか思っていないのが困る。母親がダメなら父親がじゃなく、最初から父親も子育てに参加するべき。

男性の育休を必ず取るようになり子供が小さいうちは時短勤務をするものだとすれば男女の差はなくなり、雇用も改善する。子育て世帯への支援金を増やし、子供のいない独身者から徴収する。

女性だけが優遇されること(レディースデイなど)もあるので、社会生活は今までと変わらなくて良い。

その人の育った環境、現在の状況により何が望ましいかなんて分からない。子供がいるならある程度の状況まで側にいてあげたいとは思うものの、そうなれば年齢的に妻が社会に出るのが遅くなる等々ある。アンケートひとつで答えられない。

女性の社会進出に力を入れすぎて、子育てを疎かにしてはいけない。子供が小さいうちはできるだけ一緒に居て愛情をかけなければいけない。

性差による特性の科学的な相互理解が必要

介護や子育て世代の人たちが働きやすい世の中になると良いですね。

こういうことを調べている時点でダメ。男女の違いを認めた上で普段は意識しないで過ごせるような社会を目指したい。あきらめないのが大事かと。

今の世の中、女性もかなり強くなっている。職種や職場によって状況は様々なので、ひとくりに考えるのは無理があると思う。

性別体力差等を考慮せず、全て公平に物事を処理するのは無理が有るのでは？

昭和の時代に比べて、随分と男女差別は解消されてはきていますが、日本社会が男女共生社会をこれからも良い方向に進めていくためにどうしたら良いか。諸外国の良い例を参考に、日本ならではの社会を作っていく必要がある。GDPを上げて効率の良い就業を(時短に繋がる)国民が成していく為に、人生100年時代の中、生涯わたし達は学び続ける必要があるし、子供達にこれからも質の高い教育が必要だと思います。

現役時代、女性幹部・女性技術者・管理部門も多く、女性活躍に違和感はありません。海外での経験もありますが、日本は随分遅れているとは思いますが。但し、旧来の日本のあり方を否定はしません。それは良い面もあります。

社会における男性に対する優遇を優遇と認識していない人が男女ともに多いので、そういったものに気づきを得られる啓発がなされるといいと思います。

古い考え方の方が多いのでなかなか難しいのではないかと思います。

結婚、出産関係なく働ける環境、休める環境が自然に選択できることが当たり前になるのが理想的です。

余裕が無いと出来ないが、どちらか夫婦1人が働き1人は子育てに専念する。親と同居は反対。近くに別居が理想。

まず子どもを預けるとハードルが高過ぎる。周囲に親類等がないので家庭の事を全てひとりでやっている。今はまだ共生というより分業ですね。理想とは程遠い。

自分たちの時代より最近では家事に協力的な男性が多いように思います。

私は和歌山市のスポーツ団体の会長をしており、常々女性を幹部に登用したいと考えていますが、お願いしても辞退されます。女性も全てにもう少し積極的に活動してくれると共生社会に近づくとおもいます。

これからの課題ですが、まずは働きやすくなるために労働の決まりを作っていないといけないと思います。

女性が仕事に復帰できる環境を作ること、男性が家庭に帰れるような仕事環境を作らないとどうしようもない。

独居男性は定年退職後、地域に溶け込めず孤独を感じる人もいます。孫がいると、定年後も地元で溶け込むきっかけにもなります。若い世代が男女関係なく活躍するにも、シニアが若者をサポートする力に頼らざるをえないのが現状なのかなと感じます。

子どもを持つことが、障害にならないことが、推進するための最低条件。

基本的には、「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」とするのが、男女の特徴を考えると効率がいい、素直な形だと思う。ただ、人の生き方は多様であり、女性でも独身で仕事優先にしたい方もいるかもしれない。こういった方を想定して、男女の就労の条件は平等にすべきだと思う。

国の施策として音頭取りをさせられているのは分かります。しかし、現在の男性の収入が生活を満足させられない賃金であり、それに代わって女性が働く事しか方法がないのが現状ではありませんか？女性でも仕事をしたい方も多くおられますが、そのバックアップ施策が全く機能していないのであるなら、今の時点では賛成する事は出来ないのではありませんか？子供の育児に十分な時間を掛ける事が出来ない場合、子供の思考力や健全な大人になる重要な問題を抱える事が多い理解しています。

男女共生社会の実現はすぐには行かないと思う。そういう社会の必要性を女性側がもっと積極的に行動を起こしたくなる環境整備が必要ではないでしょうか。

人や地域を大切にせる企業の増加

男女間においてはやはり特性に違いが生じるので、そのことをきちんと対応しないとイケないと思う。

仕事を続けたいけど保育所に0才から入れるとお金が高過ぎる。

夫のことを「主人」、妻のことを「家内」、女医さん、イクメン、父兄などの言葉は使わないような環境になって欲しい。能力の無い男性の出世と女性を武器に甘えた仕事をするのはやめて欲しい。

うちでは夫婦共に正職員フルタイムの共働きで、生活費はきっちり折半して出し合い、家事も半分こ、子供の参観日や保護者会等には、夫と代わりばんこに休みにを取って参加しています。生活も子育ても一緒に同等なのが良いです。

男女共生は良いが、内容や実力を伴ったものでないと意味がない。形だけのもの等は結局継続しないのが常で掛け声倒れにならないように、基準や施策を丁寧に構築しなければならぬ。

平等といっても、体力的・身体的能力を考えると真の平等は無理。

私は実際正社員として母子家庭で小学生息子と暮らしていますが、まだまだ会社の制度は古く、休みにくかったり働きにくい環境も多々あります。正社員でも他の仕事を副業できる制度があれば、長く続けられれたり、生活に余裕も出るのになど常々感じています。

明るい未来を築くためには男女共生社会は絶対に排除し、夫は仕事に、妻は家庭に、世の中の幸せ構築のために、それぞれ命を懸けて集中すること。労働人口減少のが今の大きな問題ですが、それを排除する対策としては、主婦にも外にでて働かせようとしていますが、そうでは無く①結婚推奨(独身者には税金を掛ける)②出産・子育て支援③外国労働者の受入④AI、ロボット等を使った労働生産性の向上を大きく推奨する。

より良い社会を送るためには、何を(仕事だけではない)するにも熱意を持ち合わせていけば良いと思います。

能力があれば、女性が活躍できるようになってきてる。女性が男性ほどできない仕事があるのは事実だと思う。男性も、育児に興味がないわけではないと思う。次第に増えてくると思う。

少子化の問題と併せてこれからの家庭の在り方は難しいことが山積みです。女性の方が生活力が有る場合結婚をしなかったり、離婚に至ることが多いです。男女の在り方の多様性の時代だとおもいます。どの選択も間違いではないのでしょう。

まず偏見をなくしないと、ルールばかり増やしたところで浸透せず無意味。

嫁さんが家にいることで、子どもたちが安心して放課後過ごすことができる。また、子どもたちの友人たちも、母親がいる家へよく遊びに来る。子供が中学生くらいまで、嫁さんには家でゆっくりしてもらいたいと思う。わざわざ女性も働かないとイケないという社会の流れは、変だなと思う。女性が働くのであれば、男性が家で主夫をするというのも、OKだと思う。最近、近所でも共働きが多く、子どもたちの放課後に支障？が出てきているようにも思う。子育てが嫌で働きに出たいという考えもあり、そういうのと一緒に考えてもらいたくない。

子供が小さいうちは、フルタイムをすると自分や旦那以外の誰かの手伝いが必要になる。そのため、保育所や幼稚園以外にも民間の有料保育などの手伝いがあるわけだが、長期になるとどうしても家計が手が回らなくなってしまう。フルタイムの時間も子育て中(6歳まで)のみ少なくあればよいのになど思ったりします。

男性や男性の家族の考えや意識が変わっていかないと『男女共生社会』という言葉だけが先行し、負担が女性に偏るだけではないか。

今更。今時までそんなことを議論しないとイケないほど遅れいているのかと愕然とした。

定年退職して十数年経過し、現在同じ会社でアルバイトで雇用されています。当社の場合女性が産休等で長期休暇を取られると人員が補充されないの、抜けた分はそのまま男性の負担になっています。

男女不平等で構わないと思います。

日本では難しい。また地方に行くほど難しい面がある。しかし、一概に言えないのは地方都市でも、日本海側では女性の満足度が高い県が見られ、それこそ一概に地方を括れない。お上からして、女性の社会進出を望んではいないが、内容が伴っていない。男性の意識改革は必然だが、働きもしないのに、権利をふりかざす女性にも辟易する。閉塞感がこの問題にも蔓延している。

障害者雇用と同じで、社会に出る(正社員、管理職の)女性の数を増やすことを目指していたのでは失敗する。男女とも自由に生き方を選べる社会を目指して、その当然の結果として、現在よりも社会で活躍する女性の数が増える、というのがあるべき姿だと考える。

言葉は良く聞きますが実際はなかなかきびしいものです。男性が産休などとると周りから冷たい視線を浴びるのでとる人がいないという話は良く聞きます。周りの人の仕事に負担があまり掛からないように人を増やせないものでしょうか？

女性が今の社会で自分を生かすためには、よほどの社会変革が必要であり、男女平等は今はまだ無理だと思いますよ。

男女平等いいと思います。今は沢山の女性が活躍しています。

社会においても家庭においても両性共に協力し補い合って短い人生を楽しく全うしましょう。

掛け声だけで、遅々として進展していない。

女性は家事に専念で家を守るという昔ながらの形もいいと思いますが、その時代の時よりもお給料も減り、税金などは上がり物価も高い。今の時代では女性も仕事に出ないと苦しい時代でもあると思います。男性の専業主夫も多くなっているので昔ながらの「家は女性が」とは縛りは必要ないと思いました。

雇用主と男女お互いの理解が必要

仕事においても家庭においても、男女が助け合うパートナーという意識を持たないと無理だと思います。

原則男性は子供が小さいときは働くことに専念する。子供が大きくなったら成人教育は男性がする。(監督業務)女性として、良妻賢母の教育を受けるための女子育成学校を作ること。女性は幼児教育、人間としての品格を育てる。

税金の扶養控除を利用した方が実際の収入が多くなる世帯が多いのか？マイナンバー制度が始まりアルバイトの収入等誤魔化せなくなり、女性もフルで働くようになるのか？しかし、日本はまだまだ古い考えの方が多から、育休等制度はあっても実際取得しにくく、嫌がらせが発生していそうな気がする。

産後職場に戻った時席があるかどうか、会社がきちんと段取りできるかどうか問題。

昔に比べ、残虐な事件が増えているのは、母親が子どもと時間的にも気持ち的にも余裕を持って向き合うことが少なくなっているのもあると思うので、一概に女性が社会に出て仕事するのは、子育てを考えるといい事とは思えないかな。

今二人を子育て中ですが、仕事を退職したら次に就業するときに、子供が体調不良や行事の時に休みやすい職場というのが決める基準になってしまい、今迄の経験をさらに繋げるというのが難しいなと感じます。周りの知人もいい大学に行かれたりしたりしても、子育て後は経験を生かすことができずもったいないと思います。

男女の身体づくりとして根本的に役割が違うので、全く同じ条件や全くの平等とはいかないのが現状だと思います。私個人的な経験としては、結婚子どもを望むようになりましたがなかなか授からず治療が必要になりました。年齢的なこともあり、どうしても治療を優先させざる得ない状況になり、仕事も休まざるえないことが増え、会社からは遠回しな解雇に。仕事も続けたかったですが、子どもを望む気持ちも強く、仕事の内容も内容だけだっただけに辞めるしか選択肢がなかったです。会社も上司も同僚も治療の経験もなく、なかなか理解されずに、とても辛い思いをたくさんしました。今の社会のこのような問題、男女平等、本当に難しい課題だと思います。まずは男女は違うもの！違って当たり前！だからこうあって平等！というものが無ければ、誰もが思う男女平等で共生社会にはならないのではないかと思います。男女共生社会がどういうものか分からず発言しておりますので、見当違いの発言でしたらお許しください。

男女で、結婚・出産があったり、結婚しない場合もあるし、体力も違うので、無理に平等にこだわらず柔軟な対応が必要では。

男女間だけでなく、同性間でも考え方や環境の違いがあり、なかなか難しいと思います。

男性は子育て系でお休みあったとしても申請できないのが現状なので、強制でも取れるようにして欲しい。女性は小さい子供がいるとどうしても雇ってもらいにくいのでそこを改善して欲しい。

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございます。

皆さまからいただきました貴重なご意見を参考にさせていただき、今後の本市の男女共生に関する施策の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

今後ともご理解とご協力いただきますようお願いいたします。